

高知県立高知西高等学校

令和3年度高知西高校国際シンポジウム開催！

高知西高校の3年間の探究活動の集大成を発表！

7月15日（木）、高知県民文化ホールオレンジホールにて、令和3年度高知西高校国際シンポジウムを開催しました。高知西高校3年間の探究活動の集大成となる成果発表の場となりました。

今年度はコロナ対策を十分行ったうえで開催をさせていただきました。会場には高知西高校2・3年生や来賓の方々が来場し、一方で、高知国際高校1年生と高知国際中学校全学年の生徒は、本会場と学校とをZoomを活用して中継をつないで、国際シンポジウムを視聴する形式を取りました。



【学校長挨拶】

学校長の方から、開会の挨拶として、本校の取り組み内容と目指す生徒像について紹介をしていただきました。また、今回の国際シンポジウムのコンセプトについてもお話いただきました。



【来賓挨拶】

来賓のご挨拶として、高知県教育委員会事務局高等学校振興課長である野田健一様より、お言葉をいただきました。野田様は、「探究活動を通して、主体的に課題を発見する力や解決する力を身につける、また、創造的思考力を身につけることが、将来において大切になる」ということを生徒たちに伝えてくれました。



3年生研究発表



国際シンポジウム最初のプログラムは、3年生代表4チームによる研究発表を行いました。プレゼンテーションはすべて英語で行い、パワーポイントの内容は、聴衆生徒にも分かりやすいように日本語で提示しました。聴衆参加型の発表形態をどのチームも行い、聴衆生徒と一体になった研究発表になりました。発表者の探究内容を聴いて、生徒たちは新たな気づきを得たようです。

【グループ1】

◎探究テーマ：「PSYCHO-LET ~Psychology×Toilet~」

◎探究内容の要旨：

SDGsの目標6「安全な水とトイレを世界中に」の課題解決を目指し、マラウイ共和国にトイレを広める案を考えました。マラウイ共和国ではきれいな水を使うことができず、そのために命を落とす人がたくさんいます。トイレを使い排泄物の管理ができるようになればこの状況を改善することができると考え、マラウイにトイレを広めるための方法を提案します。マラウイへの観光を呼びかけるポスターを作り経済的発展を図り、また現地の方々に衛生についての知識を広める看板を制作しました。ナッジ効果という心理的アプローチを使い、人々の行動変容を促します。



【グループ2】

◎探究テーマ：「What is Happiness for You?～Let's Learn from Different Countries～」

◎探究内容の要旨：

「幸せとは何か」という疑問から、中国、コスタリカ、南スーダン、フィンランドの4カ国の幸せについて調べ、これらの国では、どんな環境におかれても「幸せ」を見出していることを知りました。これに対して、日本は経済的に豊かであるにもかかわらず、あまり幸福に感じていない原因が、“当たり前に対する価値意識の低さ”であると考え、これをどのように価値づけることで、日本人が「幸せ」を見出せるようになるのか、その方法論について探究しました。



【グループ3】

◎探究テーマ：「Japanese Bright Future!! With Gender Equal Society.

～ Parental Leave for men and what we can do～」

◎探究内容の要旨：

私たちは日本社会の男女格差問題に関心を向け、どのように解決していけばよいかを国際社会と比較しながら模索し、最近注目されている男性の育休取得に着目して、自分たちで問題解決に向けた政策案を考えました。また、問題解決に向けて自分たち高校生にできることとして、まず身近な場所である高知西・高知国際高校での先生方の育休からの復帰をサポートするために、生徒が運営するベビーシッター部の設立にむけた企画書を作りました。

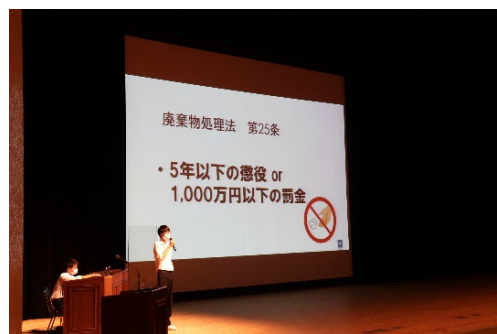


【グループ4】

◎探究テーマ：「Protecting the Ocean ~Learning its value since childhood～」

◎探究内容の要旨：

私たちは「海洋汚染」について探究を続けてきました。探究していく中で、年齢を重ねるごとに、海洋汚染についての話を聞いても意識は変わらないのではないかと考え、保育園、幼稚園児に目を付けました。小さなころから海洋汚染への正しい意識を持ってもらうために、親しみやすい紙芝居を作って実際に読み聞かせに行きました。幼稚園児の反応は様々でしたが、保育園、幼稚園が実際にこのような活動を続けていけば、「海洋汚染」だけでなく、他の「SDGs」達成にも繋がると考えます。発表を聞いて少しでも意識を変えてもらえると嬉しいです。



【高知大学 准教授 石筒覚先生からの講評】



4つのプレゼンテーションからは、それぞれキーワードが示されていて、どれも素晴らしいものであった、と評価していただきました。

また、これまでの2年半の探究活動が、将来出くわす課題の解決方法の準備であり、この高校時代に培った経験が、社会に出ても大いに活用できるものであることを知っておいてほしい、ということをお話として生徒たちに伝えていただきました。

岡山理科大学教授 Datta Shammi 先生による基調講演

【基調講演内容】 「探究は学びのエッセンス?～鳥の目、虫の目、魚の目、そしてもぐらの目!～
-未知の未来に必要となる目- きみはどう身につける?」

基調講演は、Datta Shammi 氏をお招きし、「Why や Effects を複数の角度から分析する面白さ」や、「疑問・問いを持つことの重要性」など 50 分間のご講演をしていただきました。生徒たちは、一つの物事を多角的・多面的に見る大切さや、探究活動を通して得ることのできるスキルなど新しい視点を得ることができ、学び続けることの意義についても深く考えることができました。



県内の英語教育に携わる方々とのパネルディスカッション!

【パネルディスカッション】

【討論内容】 「Welcome to Corona World～労働・文化・環境が受けた影響～」



午後からは、「コロナとどのように向き合って生きていくか?」をテーマにパネルディスカッションを行いました。今年度は、県内のALTの先生方や、高知県文化生活スポーツ部国際交流課及び高知市総務部総務課で英語教育に携わっている先生方を招き、英語と日本語で意見交換を行いました。ディスカッションでは、コロナによって、労働や文化、環境にどのような変化が起きたかについて各国の状況を情報共有しつつ、各国がコロナとどのように向き合ってきたのか、今後はどのように向き合う必要があるのかについて活発な議論が繰り広げられました。生徒達はディスカッションだけでなく、リハーサルや休み時間中にも交流を深めることができ、とても良い機会になったようです。



【高知学園大学・高知学園短期大学学長 近森憲助先生からの講評】



最後に、今回の国際シンポジウムを振り返って、高知学園大学・高知学園短期大学の近森憲助学長より、ご講評をいただきました。

国際シンポジウムについては、回を増すごとにより充実したものになっており、発表を通して英語を実践的に使えるようになってきているということを評価していただきました。

生徒たちへのメッセージとして、「一人一人の人間が、具体的にまたは個別的にかかわっていくことが一つの国際である。この関係をより良く

築くことが、すべての人を幸福にすることにつながる。」というお言葉をいただきました。

今回の国際シンポジウムをきっかけに、今後自らの課題に対して探究・解決できるよう成長してほしいと思います。

